

“目に正月さす”

初春だからこそ「目から感じ取る」

本当の自分の姿に気付きたい

あけまして
おめでとう
ございます

この重なるの五文字、三行・・・昨年使い古した「蓄音器」(昭和初期のCDプレイヤー)の“ネジ”を さあ!巻かなくては・・・という思いを起こさせます。

さて、2011年のコーチングターゲットは「目」です。目は「物を見る」そして「見ながら感じている」この2面性から本当の自分とは、隠された自分を発見します。隠された自分を知り本物の自分をしっかり受け止めるひとつの試みをご紹介します。

「好き」「楽しい」から「学ぶ事」を知り習慣化する。

全米賞ホートン・スミス賞受賞記念「ジュニア親子」ゴルフレッスン会です。、コープ上麻生店コミュニケーションルームで、コープ上麻生店の協力で始まりました。

ゴルフ・・・「テレビで見たことある」グリップ「知らない」姿勢「知らない」。ゴルフの中で最も人気のない、ゴルフスクールでこのレッスンに集中すると「私、辞めます」「黙って欠席」不人気な、しかし一番大切なP・G・A、P・ゴルフの姿勢・G・グリップ・A・目標のとり方というゴルフの基礎中の基礎からこの「親子レッスン会」は始まりました。今回ご参加下さったご家族は、4家族10名(ジュニア6名)です。ご両親にゴルフ経験があり、お子さんを伴って親子で練習場へ・・・「ゴルフ」は知っているが、両親ともクラブも握ったこともないが・・・、ジュニアにゴルフを!「ゴルフ好き」でも「初めて」という家族のレッスン会です。

対象は幼児～小学生のジュニアとご両親のレッスン会(家庭学習(予習・復習)という同じ命題に親子で取り組んでいただき、親子で成長していただくのが狙いです。

ゴルフアカデミーのプログラムとしての「親子レッスン会」は23年間にわたるレッスンプログラムの集大成として、人格形成期の幼児～幼年期にP・G・Aとシングルティーンというゴルフの基礎として決定的に重要な要素を、この時期に、この内容を、どのような状況で学習し子供たちの身体状態にどのような形で記憶され習慣されるのかがテーマです。

「ゴルフボールは打たない」・・・という今回の企画には、ゴルフにうるさい友人からは「ボールを打たないレッスン」絶対成功しないよと言われました。

ジュニア達がボールを投げる。赤、黄、白、青・・・色とりどりの柔らかいテニスボールが部屋中を飛び交います、目標もなく室内に張られたネットに向かって伸び伸びと全身をつかつかつてボールは投げられます。次に目標が貼られ目標に向かってボールは投げられます。目標に当てるのが求められます。次は床に直径30cmの「カゴ」が置かれます。ボールは「カゴ」になかなか入りません。「カゴ」にボールを入れるには、どのように投げるかを「考える」ことが求められます。ボール投げるように、目標もなく自由に投げている時、目標を決めて投げ方に工夫が必要な時、私達は時間を少しかけ(経験から)投げ方を工夫(体の使い方)して目的を達成していくことに気付きます。

「目」が実在の物を「見る」と「見ると同時に感じる」目はふたつの使い分けをします。学ぶということは自由ではありません。実在物としての「カゴ」に意図的に一貫性のある身体機能をコントロールすることにより「カゴの中(ターゲット)にボールを入れる」「繰り返し(ターゲットに)ボールを入れる」ことの出来る行動が可能なることを経験を通して知ることでしょう。そして 記憶という習慣を手に入れます。オートマチックモーションです百合ヶ丘・コープ上麻生店スクールは今年12月で第一回目を終了し来年2月次回のレッスンを始めます。アリーノ生涯学習センターでは川崎市の生涯学習教育の一環として11月14日(日)より5家族10名のスクールがスタートしました。前橋市のジュニアスクールは11月より群馬カントリークラブのご協力でコース内でのレッスンが可能になり理想的なレッスン体制が整いました。

ご家庭でのコミュニケーションとしての「親子レッスン会」は、子供たちの急成長にとまどう両親、両親をコーチするジュニア・・・会場は熱っ気イッパイ。ゴルフのもう一つの楽しさを引き出したい、私達の願いであり夢なのです。